

試験地設定

(様式1)

区分	指标
----	----

日向 嘗林署

開発課題	非皆伐施業における伐出法				期間	自54年度 至59年度
開発目的	非皆伐の施業地の伐出に当たり、残木並みに後継樹の被害を最小限にとどめ、合理的な伐出方法の開発により、活力ある森林を造成する。					
設 定	場 所	嘗林署	担当区	国有林	林小班	
		日向	尾前第二	三方原	1430	ト
	面 積	數 量				
	0.48 ha					
設 定 年 月 日		終 了 年 月 日				
担 当	當林局	課 係				
	當林署	経営課造林係				
地況及び 氣象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壤 型	土 性
	1400 m	S	急	砂岩	BOD(d)	角石土
	深 度	堅 密 度				地 位 スギ ヒノキ
	60 cm	軟				18 cm

- 記載要領 1. 区分は指示、自主、任意課題別とする。
2. 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

林令	林種	樹種	混交率	胸高直径	樹 高	材 桁	本 数	相対照度	下層植生
121	ミズナ	マツ	27						シロモシ リコウフ ノリウツギ スヌタケ クマイイコ フクワビ クンニク
	カエデ		3						
	ミズナ		5						
	その他		65	26	17	220	500	10	
現	設定前の施業経緯	日向地区植苗圃地において、森林の公益的機能を高度に發揮させるため、皆伐施業が用いられた林地、すなはち非皆伐施業地を根伐にて伐出している。							
全 体 計 画	56年度	1. 根伐方法及び搬出方法の検討 又調査項目、功程調査、支障木調査、現状調査							
	57年度	1. 距離の検討 又調査項目 (1) 根伐の状況調査及び支障木の調査 (2) 根伐の功程調査							
	58年度	1. 調査項目 (1) 根伐後の下木の成長調査 (2) 下木の発生状況							
	59年度	1. 調査項目 58年度に同じ。							

試験地設定

(様式2)

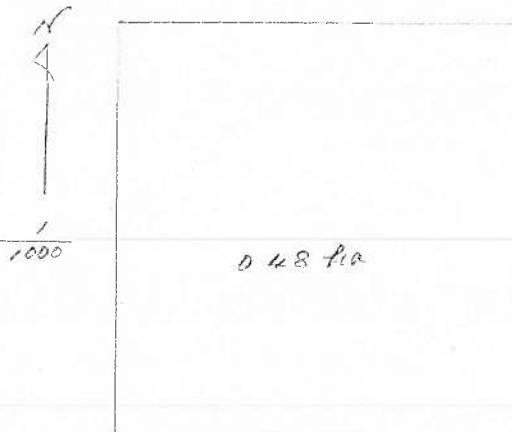
区分	指示
----	----

三向 菅林署

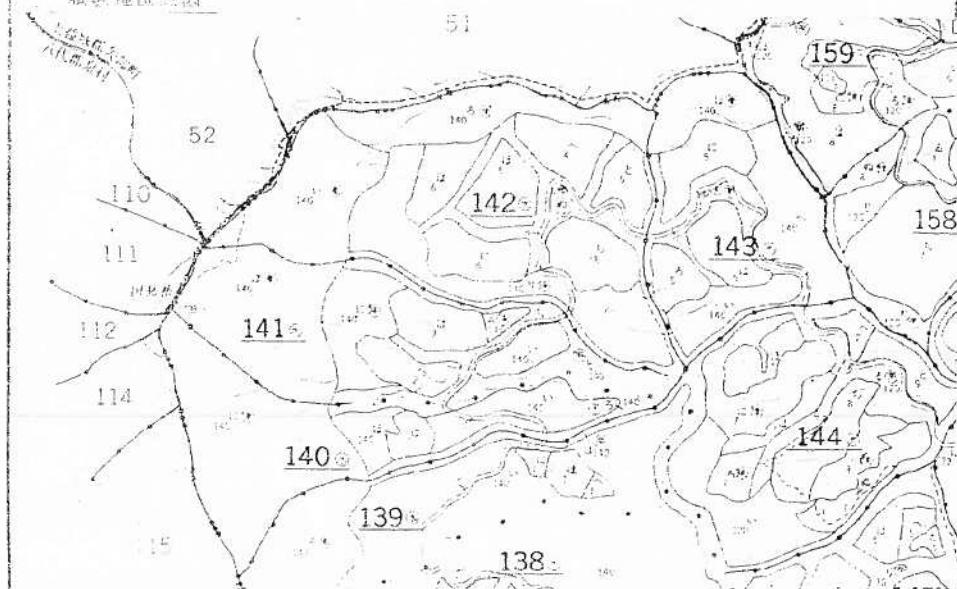
実施計画

1. 拠伐方法 (樹種選定、密度管理)
2. 採出方法 (残木の保護、搬出方法の検討)
3. 後継樹の育成 (有用産業樹)
4. 林地の保護 (林地崩壊の防止)

試験設定図



試験地位置図



記載要領 1. 実施計画は設定方法及び作業方法等具体的に記入する。

(指示課題)

昭和57年度技術開発実施報告書

課 題	班 別 新規 既存	経常 特別 目標との 関連	經常 2-1	担 任	作業課 利用課 計画課	開 発 箇 所	長 崎 人 吉 水 促 向	期 間	日 経 54年度 月 経 58年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経費	品 名	数 量	単 価	金 額
												物 件 費	調査用具			千円
題	非皆伐施業における伐出法	当	計画課	開発箇所	長崎人吉水促向	期間	日経54年度 月経58年度	予算科目	技術開発	物件費	調査用具					
目的	非皆伐施業地の伐出にあたり、残存木並みに後植樹の被害を最小限にとどめる 伐出法と間伐林分における合理的な伐出法を開発する。									役務費	現像処理付					
										人件費	臨時	人				
										計						

全 体 計 画	実 施 経 過	當 年 度 分				
		実 施 計 画		実 施 結 果		詳 細 お 上 げ 及 び 計 画
1. 既往の実行結果の分析 (1) 伐採方法 (2) 搬出方法、工程 (3) 被害調査。 2. 伐倒方法の検討 3. 搬出方法の検討 (1) 主索循環式 (2) リモコンウインチ (3) 修道 (4) その他	1. 昭和54年度より実施している樹下植栽試験地において、植栽時の上木の伐倒(折伐)及び植栽後の態度調整伐(間伐)を54年度以降各々の条件に応じた方法で実施。 2. 昭和54年度 樹下植栽(後伐)水促 3. 昭和56年度 (1) 樹下植栽(後伐)-長崎主索循環エンドレスによる (2) 人工林間伐(変形列状)人吉 (3) 天然生立葉持株の折伐 田向	1. 間伐林分における合理的な選木法と搬出法について。 (1) 列状間伐等の選木法 (2) リモコンウインチ、主索循環式修道等による搬出法 2. 非皆伐施業地(折伐)における伐出法について。 (1) 伐採方法 (2) 搬出方法。	1. 長崎主索林場 (1) 伐出方法 ア. 伐倒受窓 1. 林材は主索循環式エンドレス タリー使用 ウ. 功程割査 エ. 被害調査 2. 人吉主索林場 (1) 变形列状間伐 ア. 間伐率 本数3.9% 棚積 25% イ. 間伐方法 6割=13割 (2) 態度調査 (3) 生長量調査 (4) 功程調査			

技術開発課題完了報告書

課題名		非皆伐施業における伐出法				
課題区分		指示	開発期間	昭和54年度 ～ 昭和59年度	担当	日向営林署
目標	非皆伐施業地の伐出にあたり、残存木並びに後継樹の被害を最少限にとどめる伐出法と間伐林分における合理的伐出法を開発する。					
結果	1. 択伐木の伐出について 皆伐区との組合せ販売により施設費負担の軽減により有利販売と資源の有効利用ができた。 2. 活力ある天然林の誘導について 試験箇所は、スズタケが密生しており稚樹の発生が少く期待できない。					
施業及び作業の内容	項目	内 容	項目	内 容	項目	内 容
	伐採の方法	択伐				
	樹種	ブナ外27				
	林齢	141年				
	胸高直径	$\frac{30}{4 \sim 102} cm$				
	樹高	$\frac{20}{3 \sim 27} m$				
	ha当たり本数	833本				
	ha当たり材積	256 m^3				
<u>開発経過と調査内容</u> 植葉団地の国有林は、地域施業計画で皆伐指定されても伐採跡地は新植できない陥阻地等が多く、皆伐施業が制限されて資源の有効利用ができない。しかも林相は天然林の老齢過熟林分で活力のない森林となっている。 このような林分を複層林で生産力の高い活力ある天然林に導くことを目的とし、併せて資源の有効利用、国土の保全、景観の保持を図るために択伐の試験区を設け、稚樹発生誘導の試験調査を実施した。						

1. 設定年月日 昭和 56 年 10 月 6 日
2. 設定場所 宮崎県東臼杵郡椎葉村大字不上野字三方界国有林 143 と林小班内
3. 設定面積 区域面積 6.76 ha 内試験地 0.48 ha
4. 地況 標高 1,430 m 方位 W 傾斜 10° ~ 35°
複合斜面 植壤土 飼行土 B d
5. 林況 ブナ, カエデ, ミズメを主とする広葉樹とモミ, ツガ等針葉樹が点在する。
141 年生の天然林 ha 当り材積 256 m³
6. 實施内容
 1. 択伐木の選木
 2. 伐出方法の検討
 3. 択伐前の稚樹調査
 4. 抚伐後(3 年長期)の稚樹発生状況調査
 5. まとめ

評価及び普及指導

1. 抚伐木の伐出について
皆伐と合せ択伐を実施したので、施設費負担の軽減が図られた。
2. 活力ある天然林の誘導について
スズタケ密生箇所、肥沃地で草本類の密生箇所は照度不足と物理的障害により目的とする稚樹の発生、生育が困難であり、刈払の必要がある。

非皆伐施業における伐出法

1 試験の目的

椎葉団地の国有林は地域施業計画で皆伐指定されても、伐採跡地は新植できない陥阻地等が多く皆伐施業が制限されて資源の有効利用ができない。しかも林相は天然林の過熟林分で活力のない森林となっている。

このような林分を複層林で生産力の高い活力ある天然林に導くことを目的とし、併せて資源の有効利用、国土の保全、景観の保持を図るため択伐の試験区を設け稚樹発生誘導の試験調査を実施した。

2 試験地の概要

試験地は九州のほぼ中央部の背稜山系に位置し地形が急峻な山岳地帯である。

この団地の全域が水源かん養保安林に指定され一部は九州中央山地国定公園にも指定されている。

- (1) 場 所 宮崎県東臼杵郡椎葉村大字不土野字三方界国有林 143と林小班
- (2) 面 積 区域面積 6.76 ha 内試験地 0.48 ha
- (3) 地 況 標高 1,430 m 傾斜 10°～30° 方位 W
複合斜面 塙壌土 BDd 剥行土
- (4) 林 況 ブナ、カエデ、ミズメを主とする広葉樹とモミ、ツガ等針葉樹が点在する。
141年生の天然林でha当たり蓄積 256 m³である。
- (5) 設定年月日 昭和 56年 10月 6日

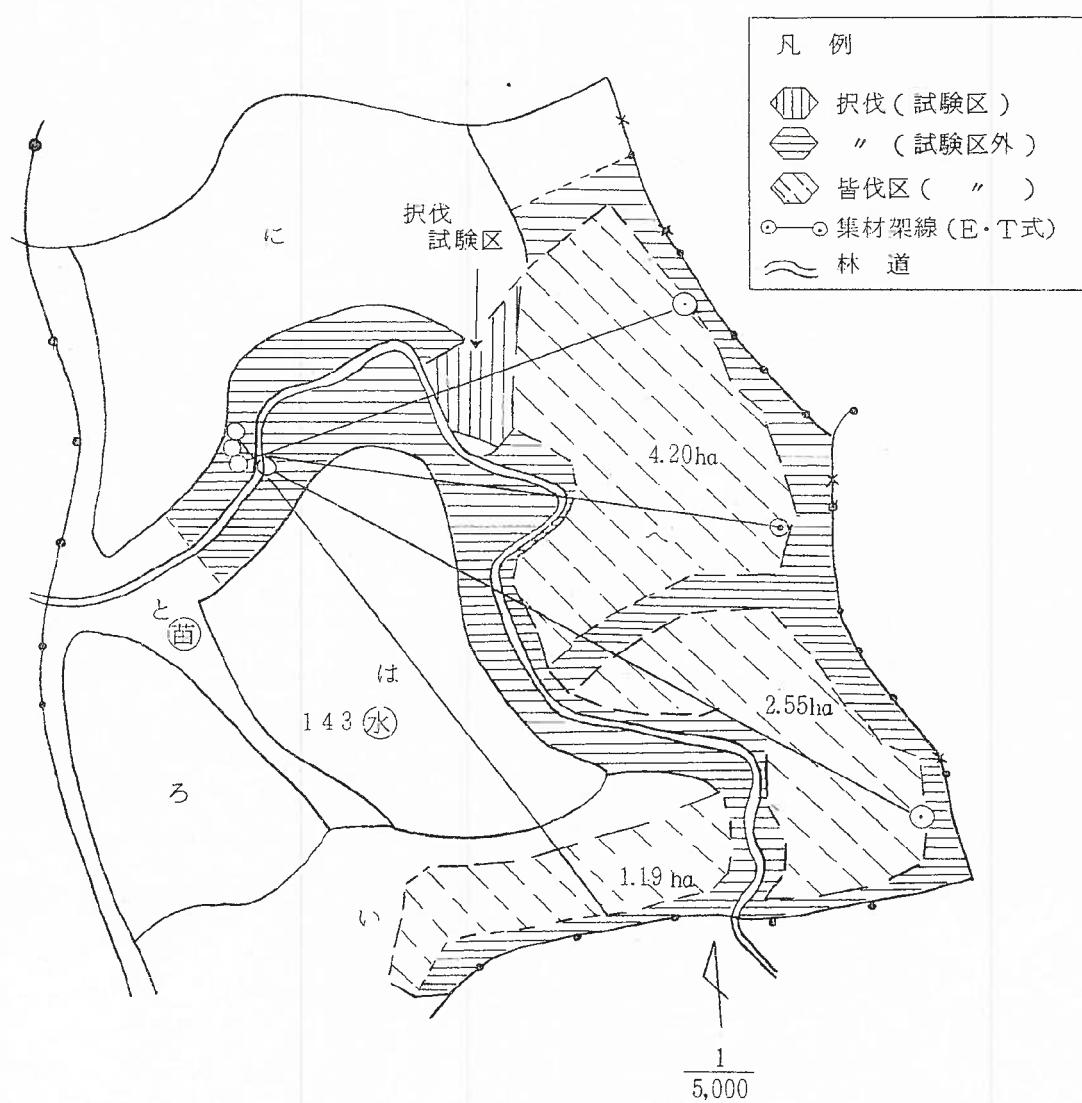
3 試験の方法

- (1) 択伐の方法 単木択伐
- (2) 択 伐 率 試験地の立木本数 400本 材積 123 m³ 択伐材積 36m³
択伐率 29%
- (3) 択伐木選木の基準
- ア. 被害木及び生長量の低下が著しい老齢過熟木
 - イ. 形質不良木及び材質的に価値の低い立木
 - ウ. 稚樹の生長を妨げる立木
 - エ. 樹冠が貧弱で着葉量が少なく活力のない立木
 - オ. 利用上適当な径級に達した立木
- 以上の順序で現地の林相に応じて選木した。

(4) 拾伐木搬出方法

図-1のとおり、皆伐区と組合せによる拾伐で試験地上に架設したので、皆伐区と同様に全幹材(大径木は単材)をエンドレスタイラー方式により搬出した。

図-1 位置及び集材架線図



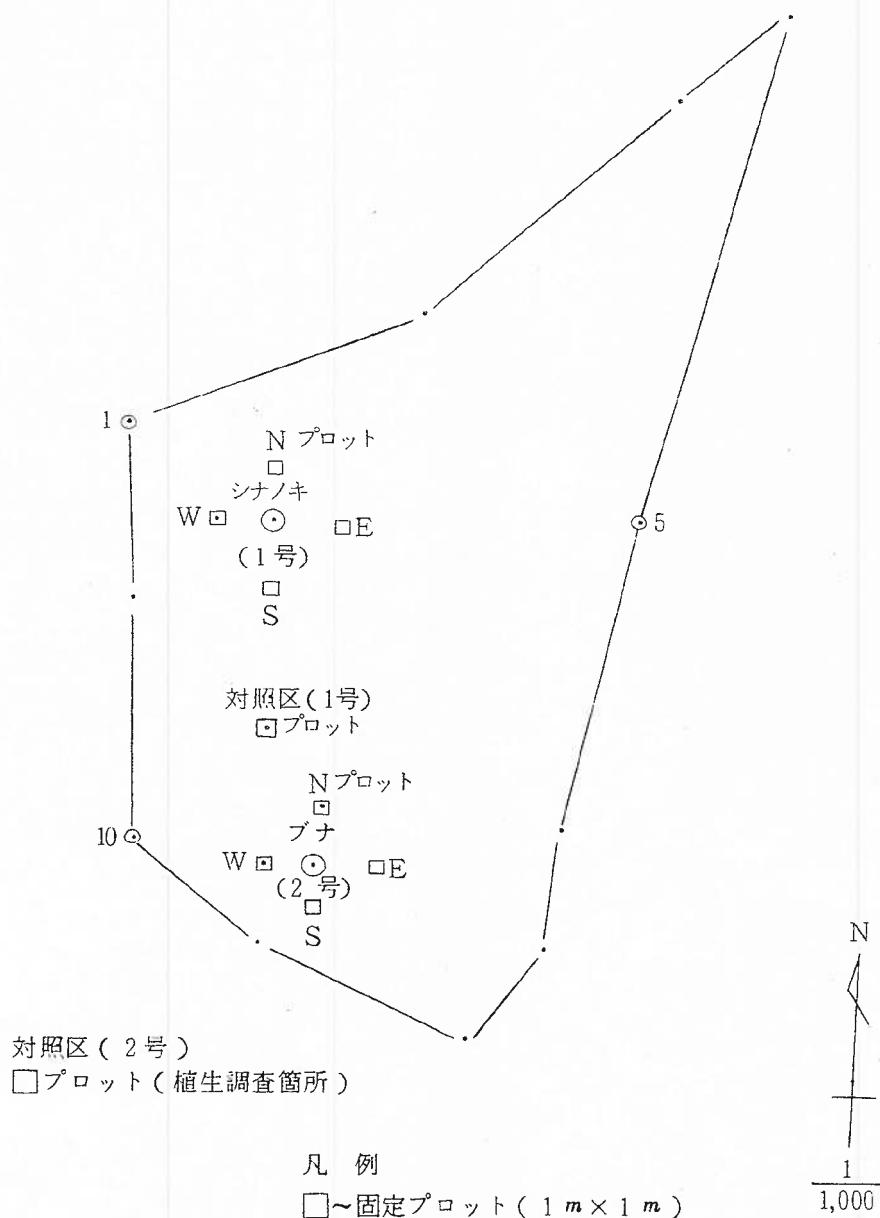
(5) 伐出期間　自 昭和 56年 10月 9日
至 昭和 57年 5月 19日

(6) 植生調査の固定プロット設定

図-2 のとおり択伐試験区内

図-2 試験地実測図

面積 0.48 ha



4 調査結果

(1) 抜伐前の固定プロット内稚樹発生状況

表-1のとおり試験地が老齢過熟林分であり稚樹の発生は局部的にはあるが全体として少ない。

表-1

抜伐前のプロット内稚樹発生状況

種別 プロット	有 用 樹 (本)				稚 木 (本)				スズタケ (本)
	ミズメ	カエデ	シナノキ	小 計	ヒメ シヤラ	シロモジ	その他	小 計	
1号	N								44
	E		1	1	1			1	38
	S						12	12	11
	W						26	26	28
2号	N					1	26	27	26
	E						4	4	38
	S		10	11			3	3	11
	W	4	1	5	1		2	3	10
対1号							1	1	24
対2号							2	2	40

(2) 抜伐完了4ヶ月後の稚樹発生状況で、昭和57年9月末に調査したが新たな稚樹の発生はなかった。

(3) 抜伐完了後3生長期間の稚樹発生状況

表-2のとおり稚樹発生は期待どおりの発生はなかった。

表-2

抜伐完了後3生長期間の稚樹発生状況

種別 プロット	有 用 樹 (本)					稚 木 (本)				スズタケ (本)
	ミズメ	カエデ	サワグルミ (シナノキ)	ブナ (サクランボ)	小 計	ヒメ シヤラ	シロモジ	その他	小 計	
1号	N							2	2	45
	E									2
	S									37
	W									42
2号	N		1		1	2				63
	E		7		1	8				25
	S				(1)2	3	2		2	17
	W			1	1	2				47
対1号			(3)1		3	7		4	4	
対2号		2			38	40		4	4	

(注) 抜伐後の稚樹発生本数が減少したのは伐出の際、損傷したものと考えられる。

5 まとめ

(1) 拗伐木の伐出について

皆伐と合せて拗伐を実施したので施設費負担の軽減による有利販売と資源の有効利用がはかられた。

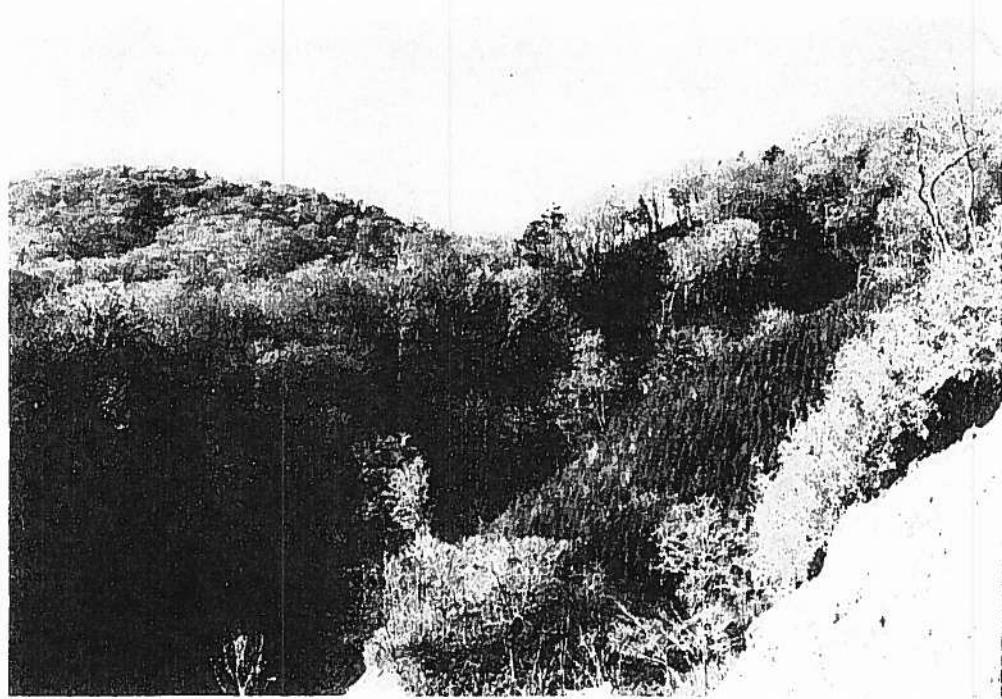
(2) 活力ある天然林の誘導について

スズタケの発生個所、肥沃地で草本類の密生個所は照度不足と物理的障害により目的とする稚樹の発生、生育が困難であり刈払の必要がある。

伐採前林相



抾伐後の林相



プロット1号（シナノキ）中心部の植生



プロット2号（ブナ）中心部植生

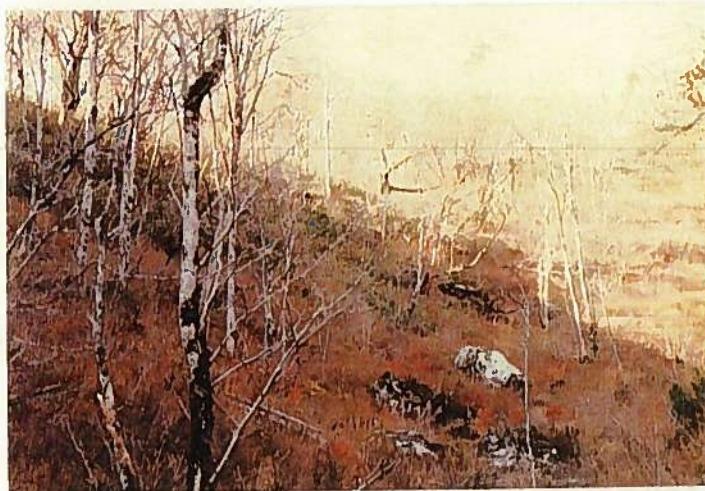


状況写真

日向 常林署

(様式 6)

伐採後の遠景

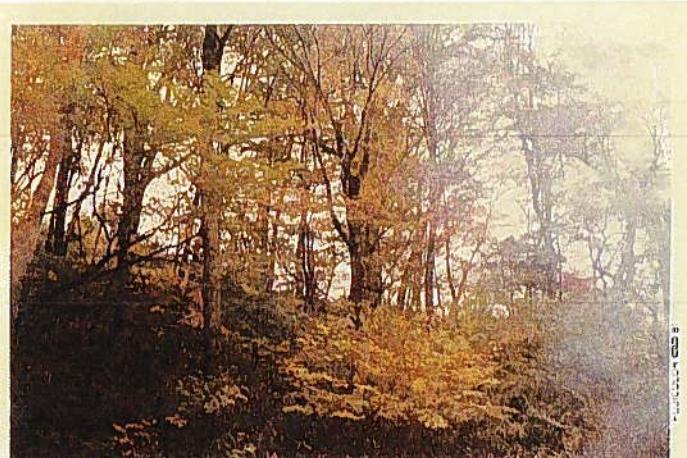


状況写真

月 日 営林署

(様式 6)

伐採前の状況



状況写真

日向
試林署

(様式 6)

植生の状況

プロット1号(シナノキ) 中心部の植生

プロット(1号-E) の植生



プロット2号(ブナ) 中心部の植生

プロット(2号-E)より約10m下方の林道附近

